

第5章 まとめ

○在宅医療の実施状況

在宅医療の実施状況は、内科診療所では1割台半ば、歯科診療所では約3割となっているのに対し、薬局では5割以上となっている。

○在宅医療の今後の取り組み意向

在宅医療の今後の取り組み意向は、内科診療所では「意向はない」が7割で最も高くなっているが、歯科診療所では「意向はあるが実施は難しい」が約6割で最も高く、薬局では「意向はあるが実施は難しい」が5割強、「意向があり、実施の予定」が3割強となっている。

歯科診療所、薬局では一定数が意向を示しているが、実際に実施するのは困難としている。今後、在宅医療を推進していくためには意向のある機関に対して支援していくことが求められる。

○在宅医療の実施は難しい、意向はない理由

在宅医療の実施は難しい、意向はない理由は、3調査共通して「実施スタッフが少ない」の割合が最も高くなっている。また、内科診療所、歯科診療所では「体力的に厳しい」、薬局では「24時間365日の対応が困難」が2番目に高くなっている。

○三鷹市の在宅医療を行う医師、歯科医師、薬剤師を増やすために必要だと思うこと

三鷹市の在宅医療を行う医師、歯科医師、薬剤師を増やすために必要だと思うことは、内科診療所では「休日、夜間等に対応できる複数医師との連携体制」、「患者の状態変化の受入れ病床の確保」が6割以上となっており、歯科診療所では「機材・器具の貸出等の支援」が約6割、薬局では「訪問できる薬剤師の確保」が約7割、「医師、歯科医師や介護スタッフとの連携体制、顔の見える関係の構築」が約6割となっている。

内科診療所では体制の整備、歯科診療所では機材の貸出等の支援、薬局では人員の確保と体制の整備が在宅医療を推進する上での課題として特に挙げられている。

○患者の高齢化に伴う診療上の困難さや課題等

患者の高齢化に伴う診療上の困難さや課題等は、内科診療所、歯科診療所では「継続した通院が困難な患者が増えている」の割合が最も高くなっている。薬局では「治療・服薬に対する理解、同意に時間を要する」が最も高くなっている。

内科診療所、歯科診療所で継続した通院が困難な患者が増えているとの回答が多いことから、在宅医療に対するニーズが高まっていくことが予想される。

○在宅医療・介護連携を進めるために必要だと思うこと

在宅医療・介護連携を進めるために必要だと思うことは、3調査共通して「事例検討会、研修や交流会を通した『顔の見える関係』づくり」、「多職種間の調整、連携を推進する役割を担う組織体の機能強化」が4割を超えて上位2項目となっている。